

自立活動 個別の指導計画 (病弱・身体虚弱特別支援学級)

記入日 令和〇〇年〇〇月〇〇日

氏名・学年	〇〇 〇〇 (〇〇中学校 1年 男)	本人の願い	・楽しく学校生活を送りたい。 ・勉強が分かるようになりたい。	記入者	〇〇 〇〇
保護者の願い	・体調管理をしながら、学校生活を楽しんでほしい。 ・少しでも友達との関係が広がってほしい。				
長期目標	・自分の病気や身体の状態を理解した行動を身に付けられるようになる。				
区分	生徒の実態	指導目標	指導内容・指導方法 (手立て)	評価	
健康の保持	・自分の病気については分かっているが、運動制限があることや気を付けなければならないことなどの理解に課題が残る。 (2) (5)	・自分の病気を正しく理解し、日々の病気の状態や体調に気付くことができるようにする。	・保護者や主治医と連携を図り、本人に対しどのように伝えたらよいのか共有を図る。 ・毎日検温をしたり、脈拍を測ったりするなど、本人が体調の変化に気付けるようにする。	・本人に対してどのように伝えるのか、保護者と共有したことで、本人にうまく伝えることができ、病気の理解につながっている。また、毎日検温をしたり、脈拍を測ったりすることで、自分の状態が分かり、変化に気づきやすかった。	
心理的な安定	・創作活動や身体を動かすことを好むが、運動制限により、みんなと同じことができないときにイライラした状態になることがある。(1)	・少しでも悩みや不安が解消できるよう、自分なりの解消方法を身に付ける。	・本人がどのように感じているのか、気持ちをじっくりと聞ける雰囲気作りを行い、話ができるようにする。 ・大人の塗り絵や折り紙等が得意で集中することができる良さを生かした活動を取り入れながら、少しでも不安を軽減できるようにする。	・じっくりと話を聞く時間を設けたことにより、気持ちが楽になることが多かった。今後は、交流学級の友達にも広がるようにしていく必要がある。 ・得意な活動を取り入れることで、精神が落ち着き不安軽減につながっている。	
人間関係の形成					
環境の把握					
身体の動き					
コミュニケーション	・友達と話したい気持ちはあるが、入学してすぐに入院したために、自分のことを忘れていないかと不安に思うことがある。周りの友達も、そのように思っていないので話しかけるが、本人は、緊張して消極的になることが多い。(5)	・友達との会話する場面が増え、楽しめるようになる。	・自立活動の時間には、ありそうな場面を取り上げ、ロールプレイをして練習を行う。	・自分から話しかけることは少ないが、友達との会話では笑顔が時々見られ、相違や返事をするが増えた。	

※自立活動の区分・項目は、全て記入する必要はなく、児童生徒の実態に応じて選択します。

※該当する自立活動の項目を ( ) 内に表しています。

教科等	生徒の実態	指導目標	指導内容・指導方法（手立て）	評 価
保健体育	・運動制限があるために、参加できる活動とできない活動がある。体を動かしたい気持ちが強く、活動に参加できないときには、イライラすることがある。	・授業の中で自分にできる役割を見付け、体調に合わせた参加の仕方を選択できるようになる。	・友達と一緒に身体を動かすことができなくても、授業に参加できる活動を見付けられるように教科担当者と連携し、共有を図る。	・得点係や審判などの役割を明確に示したことで、意欲的に授業に参加できた。また、自分の体調に応じて対応しようとする意識が芽生えつつある。
その他 特記事項				

※各教科については、児童生徒の実態に応じて選択します。